

# 緒 言

地質情報研究部門 副研究部門長 荒井晃作

産業技術総合研究所・地質調査総合センターでは、構造地質学・層序学・堆積学・地球物理学・地球化学・水文地質学など様々な手法での調査・研究を行い、陸域と海域の境界を含めた沿岸域の地質情報の空白域を埋めるとともに、海陸にわたって活断層や地層の連続性、重力・磁力異常の分布などを明らかにし、陸域から海域まで連続する海陸シームレス地質情報集として成果を発信しています。日本の都市の多くは沿岸域の平野に位置し、工業地帯、発電施設や空港などのインフラの多くも沿岸域に集中しています。そのような沿岸域で起こる地震・津波による災害は、国民の多くにとって脅威となります。そのため、地震減災対策に役立つ沿岸域の地質情報の整備が重要となります。産業技術総合研究所では、平成19年に発生した能登半島地震と中越沖地震が、沿岸域の地質情報の空白域で発生したことを踏まえて、平成20年から平成25年度にかけて産業技術総合研究所の政策課題として「沿岸域の地質・活断層調査」を実施してきました。沿岸域を中心とした活断層や地盤に関する、正確で精密な地質情報の整備、それらを支える調査技術の開発を目的として、能登半島北部沿岸域、新潟沿岸域、福岡沿岸域、石狩低地帯南部沿岸域及び駿河湾北部沿岸域の調査・研究を実施してまいりました。

平成26年度からはプロジェクトの新たなフェーズとして、特に大都市圏沿岸域における地質・地盤情報整備を行うために、先ず3年間のプロジェクトとして、関東平野南部沿岸域の調査・研究を実施してきました。引き続き、平成29年度から平成31年度の3年間では、伊勢湾・三河湾を中心とする中京エリアにおいて調査を行っていく予定です。伊勢湾・三河湾は愛知県渥美半島、愛知県知多半島及び三重県志摩半島に囲まれた海域です。名古屋市、四日市市、鈴鹿市などの集中した工業地帯に接する海域で、精密な地質情報の整備が求められるエリアと言えます。平成29年度は、陸上ではボーリングデータの収集から開始され、活断層の評価を主な目的とした、ボーリング調査を開始しました。また、活断層の連続性や形状を把握するための、平野域の浅部構造探査も実施しています。海域では伊勢湾・三河湾全域の地質情報を把握するために高分解能音波探査から開始し、地質層序や活断層や構造を把握できました。これらの情報に基づいて、活断層の活動履歴を明らかにしていきたいと考えております。

本報告は、平成29年度に実施した伊勢湾・三河湾の海域及び陸域の調査・研究活動等を報告するものです。本報告には、7件の研究成果が収められています。伊勢湾・三河湾沿岸海域の反射法音波探査による海域の地質層序及び地質構造の成果。陸域調査研究では、鈴鹿市南部における地形と地質調査、ボーリング調査、西三河平野南西部の調査結果に加えて、浅部構造調査の成果を報告します。また、相模湾沿岸域に関連する横須賀市南部の重力探査の結果について報告しています。本報告は、速報として調査終了直後に作成されたため、調査で得られたデータが十分に解析され、その解釈が固まったものではないですが、本研究の概要と現状を示し、沿岸域の地質学の進展と社会への研究成果の迅速な還元をすすめるものです。

ご高覧いただき、調査・研究内容や成果についてご理解いただくとともに、忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。